

令和6年度採用職員（6名）

採用後、9月までの半年間、香川県消防学校で初任教育として基礎的教育訓練を受け、現在、坂出市消防本部で活躍しているフレッシュな職員にその想いを聞いてみました。

【消防士になってみて】



消防士になってみて私は責任と自覚という面で大きく成長するきっかけをいただけたと思っています。初任科教育の中ではまだ現場経験もなく、市民の方の生命を預かる仕事であるという自覚が薄かったと感じています。しかし、本部に戻り多くの現場を経験させていただいた中で、プロとして活動する自覚、そして任された事に対して持つべき責任というものを感じる場面が多くありました。今後火災や救急の場面で様々な現場に出場することが増えていく中、より一層気を引き締め、消防士であることに誇りをもって活動していきたいと強く思っています。

【消防士としての夢】

消防士として活動していく中で、すべての生命を助けるというのは必ずしも叶うものではないと実感しています。ですが、救われるはずであった生命までも失うことはあってはいけないことです。

そのため、どんな現場であっても最善を尽くすことができるその過程として、私は準備というものを大切にしたいと考えています。

何をするにも準備段階でのミスは致命的なものです。その準備を大切にすることで、致命的なミスを減らし、一人でも多くの人が笑顔に暮らせる坂出を作ることができると思っています。



【消防士になってみて】

消防士の仕事は、常に危険と隣り合わせの環境で助けを求める人たちの命や財産を救わなければならない仕事です。私は、実際の現場を経験するたび、その緊張感と責任感を強く感じています。

まだまだ新米隊員で学ぶことが多くありますが、先輩の方々の姿からたくさん学んで成長していきたいと思っています。



【目指す消防士】

坂出市消防本部は兼任であり、救急、火災、救助などのどんな現場も対応できる能力が求められます。また、兼任は様々な経験も積めるということでもあり、その環境を生かし、どんな現場でも活躍できる幅広い知識を持った人材になりたいです。

また、危険な状況に陥り、不安な状況下でも安心してもらえるような、助けを求める人たちの気持ちに寄り添える隊員になりたいです。



【消防士になってみて】

半年間の消防学校の初任科教育を終え、本部に戻ってから火災・救急・救助と様々な現場を経験しました。やはり現場は1つ1つ異なり同じ事例・症例はないし、正解が1つでなく、各職員の考えがあってこそ消防だと思っています。だからこそ、出場した際は数多くの方法や考え方からその現場で最適な選択ができるように日々勉強しています。また、現場に行くにつれ、女性職員だからこそ男性職員とは違った形で市民の方々に安心してもらえていると感じることができた現場もあります。緊迫した現場の中でミスがあっても人を助けられるということではできません。決して楽な仕事では無いですが、日々の訓練や1つ1つの現場がとても貴重であり、とてもやりがいを感じることでできる仕事です。

自分自身を支えてくれてより強く成長させてくれる同僚やこの仕事に深く感謝していますし、市民の方々により近い立場の消防士として一人でも多くの市民を救えるようにこれからも様々な面で日々精進します。



【消防士を志望したきっかけ】

私が消防士を志望したきっかけは、消防の特集などで様々な現場に素早く準備し駆け付け、対応していく姿に心を打たれたことです。幼い頃から「どんな形でもいいから将来人の役に立つ・人のためになる仕事がしたい」と志していました。成長するにつれ最も人の近くで役に立つ職種は何かと考えた際に「消防であれば、助けを求める人にいち早く駆け付けられるのではないかと」という考えに至りました。また、消防という職種を調べていく中で「救急救命士」という資格が目にとまり、資格内容を見てこの資格を取ればより人のためになれるし、学べることも多くなるのではないかと感じ、勉強に勤しみ資格を取得し消防の道へと進みました。

実際にこの仕事をしていて学ぶことはとても多いです。常に隊として活動するため、救急現場へ出場後の車内であの時先輩方であればどのような対処が最適として活動したのか、火災へ出場する際



のシミュレーション、出場後に活動のアップグレードのために様々な場面で意見が交差します。私はまだ考えが至らない部分があるため先輩・上司が挙げた意見を自分なりに噛み砕きながら自分自身の考え方の引き出しに取り入れています。1つ1つの出来事に新しい発見がありやりがいを感じることでできる消防職を選んでよかったと強く感じています。これからも初心・感謝を忘れず頑張っていきます。

【消防士になってみて】



消防士の仕事といえば、救急出場、火災出場、救助出場などの現場活動を想像していました。

ですが、報告書作成などの事務作業、立入検査や市民対応など、消防の業務は現場活動だけではないと実感しました。多岐にわたる業務や訓練など、覚えることも多くて大変ですが、幼少期からの夢であった「消防士」としてこれからも自己研鑽に努めます。

【目指す消防士】

私の目指す消防士は、市民に寄り添い、市民から信頼される消防士です。

知識、技術の習得、市民の事を考え広い視野を持った活動、接遇の良い活動を行えるよう、初心をいつまでも忘れずに市民に信頼される「消防士」を目指します。



【消防士になってみて】

私は幼い頃からずっと将来の夢は消防士でした。半年間の消防学校の初任科教育を終え、実際の火災・救急・救助と様々な現場を経験しました。消防という仕事は正解が1つでなく、数多くの方法からその現場で最適な選択ができるように日々勉強しています。また、命を救うことの嬉しさや悲しみに直面することの辛さを学びました。決して楽な仕事では無いですが、日々の訓練の大変さ以上に人の命を救える、とてもやりがいのある仕事です。将来の夢であり、街のヒーローである消防士として一人でも多くの市民を救えるようにこれからも体力面・精神面・技術面を日々鍛えていきます。自分自身を強く成長させてくれるこの仕事に感謝しています。

【休日の過ごし方】

私はたくさん趣味があります。この仕事は多趣味な私にとって嬉しく夜も眠れないほどです。

また、平日休みもあるので旅行や出掛けの際に人混みを避けて満喫できています。

周りの消防職員は釣りやキャンプ、バイクが趣味の方が多いです。休日には仲間たちと釣りをしながらキャンプをしたり、バイクでツーリングしたりとても仲が良かったです。

消防は、大きな災害時は休みの日でも非番招集がありますが、地域のヒーローであるために、何をしてもすぐに現場へ駆けつけます。どんなに大きい魚を釣ってる最中でも、恋人と楽しいひと時を過ごしていても駆けつけます。

しかし、もちろん遊んでばかりではいけません。「筋肉ムキムキでカッコいい消防士」をモットーに筋トレにも力を入れ、日々鍛えています。

数多くある職業の中で、ここまで全力で仕事に取り組めて、休日はリフレッシュでき、やりがいを感じることができる消防士を私は誇りに思っています。

これからも何事にも感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきます。



【消防士になってみて】



消防士になってみて、私はとてもやりがいを感じています。

半年間の消防学校生活を終え、消防署に配属となり隔日勤務をするなか、段々と災害現場に行くことが多くなってきて、市民の方々の命を助けるという責任感を様々な場面で感じるようになりました。その中でミスをしてしまうこともあります。先輩方に優しく、時には厳しくご指導していただきながら日々業務に取り組んでいます。

これからも災害現場で助けを求めている方の力になりたいです。

【消防士としての夢】

市民の方々の要望に応え、最後まで全力で現場活動に取り組める消防士になりたいです。そのために、日々の訓練や現場活動を通して、たくさんのことを学び、知識、技術、体力を身に付け、消防士として日々成長していきたいです。それだけでなく、常に周囲の状況を把握し的確な判断ができるように日頃の生活から意識していきたいと考えています。

